

9 初期ジェンダー統計関係文献（日本）リスト*

(1)このリストは、本プロジェクトで編集したジェンダー統計関係論文等（日本）集成 No.1～No.3 で編集・掲載した関係文献リストを一括したものである。

(2)I: ジェンダー統計関係論文等, I-A:ジェンダー統計一般文献, I-B: ジェンダー統計指標・指数・指標, I-C: 生活時間統計と無償労働評価関係文献, II: ジェンダー統計書, に区分した。

(3)表の右端の印は、これらのうち『文献集成』に複写・再録したものをさす。【○: No. 1, ◎: No. 2, ●: No. 3 に、それぞれ収録】

(4)『文献集成』ではそれぞれの時期の文献について概括的解説をした。

I ジェンダー統計関係論文等

I-A ジェンダー統計一般文献

	著者・訳者	年	論文・記事・著書	所収誌・出版社	
1	田中尚美	1983	翻訳・「政府統計における性差別」(A&R. オークレー)	伊藤陽一他訳『虚構の統計』梓出版社第9章	
2	伊藤陽一	1987	統計における性差別	『統計学』No.52	○
3	伊藤セツ	1987	主たる生計維持者・世帯主の概念－日産自動車家族手当男女差別裁判の一論点	『賃金と社会保障』No.964＝婦人労働問題第12号	○
4	高橋展子	1987	『翻訳・国連 INSTRAW: 世界経済における女性』	東京書籍	
5	袖井孝子・矢野真和編	1987	『現代女性の地位』	勁草書房	
6	伊藤彰彦ほか	1988	家計調査をめぐる討論	『研究所報』(日本統計研究所) No.14	
7	Setsu Ito & Syunko Ishiro	1989	Issues Concerning the Concept of the Term "Household Head" in the Family Income and Expenditure Survey Published by the Bureau of the Management and Coordination Agency	<i>Journal of Home Economics, Japan</i> 40(8)	○
8	伊藤セツ・居城舜子	1989	総務庁「家計調査」勤労者世帯の収入主体の分類をめぐる問題点	『家庭管理学研究室報』(立川短大) No.13	
9	伊藤セツ・居城舜子	1989	総務庁統計局「家計調査」における「世帯主」概念をめぐる問題点	『婦人労働』No.14	○
10	日本家政学会家庭経営学部会	1990	報告「関東地区」	『家庭経営学研究』No.25	○
11	田中尚美	1990	統計における「世帯主」の概念	『統計学』No.58	○
12	田中尚美	1990	家計調査の収入主体区分について－世帯主の概念と関連して	唯物史観 36号	
13	伊藤陽一	1991	統計と性差別	『統計』(日本統計協会)1月号	○
14	伊藤セツ	1991	女性と夫妻の生活行動把握について－「社会生活基本調査」の利用者として一言	明日への統計(総務庁統計局)	○
15	伊藤セツ	1991	第三世界の開発と女性 その3－女性の経済活動への参加について	『女性文化研究所紀要』(昭和女子大)No.8	○
16	田中尚美	1991	翻訳・国連事務局『性的ステレオタイプ、性的偏りおよび『国家データシステム』	『統計研究参考資料』(日本統計研究所) No.34	

* 第 III 部の解説で示したが、これは、01-02 年度の科学研究費プロジェクトの際に作成した「ジェンダー統計文献(日本)リスト」の再録である。2002 年までのこのリストに、「初期」のリストという名称をつけた。不十分な点があるが意味を持つと考えた。注釈その他は作成時のままである。(3)は、当時作成した内部資料としての文献集成への収録の有無を示している。

17	日本家政学会家庭経営学 部会関東地区部会	1992	Discussion Paper No.1 の発行によせて	Discussion Paper No.1	○
18	馬場紀子	1992	総務庁 1989 年 (平成元年)「全国消費実態調査」は家庭経営学の教育・研究にどこまで使えるかー高齢者家計の実態分析を通して	Discussion Paper No.1	○
19	川島美保	1992	総務庁 1989 年 (平成元年)「全国消費実態調査」は家庭経営学の教育・研究にどこまで使えるかー共働き家計の実態分析を通して	Discussion Paper No.1	○
20	経済統計学会	1992	「官庁統計改善に関する要望書」の提出	『統計学』No.63	○
21	社会保障研究所	1993	『女性と社会保障』	東京大学出版会	
22	日本家政学会家庭経営学 部会	1993	報告「関東地区」	『家庭経営学研究』No.28	○
23	伊藤陽一・杉橋やよい 訳	1993	翻訳「女性と統計」関連主要文献ー目次・序文等翻訳集	『統計研究参考資料』(日本統計研究所) No.39-上記 No.34 を再収録	
24	大沢真理	1993	企業中心社会を超えてー現代日本をくジェンダー>で読む	時事通信社。性別隔離指数のジェンダー統計分析	
25	伊藤セツ	1993	『両性(ジェンダー)の新しい秩序の世紀へ:女性・家族・開発』	白石書店	
26	日本家政学会家庭経営学 部会	1994	「平成6年全国消費実態調査」にむけての家庭経営部会からの要望	『家庭経営学研究』No.29	○
27	岩崎俊夫	1994	女性労働と統計ー経済活動人口の指標を中心に	賃金と社会保障 No.964=女性労働問題研究 24	○
28	伊藤セツ	1994	両性(ジェンダー)の新しい秩序の世紀へー女性・家族・開発ー	『女子大通信』(日本女子大) No.550	○
29	伊藤セツ	1994	大都市雇用労働者夫妻の生活時間構造の家庭経営学的研究	『日本家政学会誌』45(9)	
30	法政大学日本統計研究所・伊藤陽一編著	1994	『女性と統計ージェンダー統計論序説ー』	梓出版社	
31	鈴木敏子	1994	「1990年国勢調査」をめぐる世帯構成と家族構成	(社)日本家政学会家庭経営学部会関東地区会 Discussion Paper No.2	◎
32	竹中恵美子・久場嬉子	1994	『労働力の女性化ー21世紀へのパラダイム』	有斐閣	
33	伊藤陽一	1995	ジェンダー統計ーその特徴と可能性ー	『婦人教育情報』No.31	○
34	岩崎俊夫	1995	統計指標としての経済活動人口ー概念と調査ー	『婦人教育情報』No.31	○
35	田中尚美	1995	ジェンダー視点からみた家計統計	『婦人教育情報』No.31	○
36	篠塚英子	1995	ジェンダー視点からみた経済統計の問題点ーウォーリングの投げかけた波紋ー	『婦人教育情報』No.31	○
37	上村千賀子	1995	統計にみる女性の現状	『婦人教育情報』No.31	
38	Yoichi Ito	1995	Gender Statistics in Japan: Its Present State and its Perspective-From the Viewpoint of the school of Social Statistics	『統計学』No.68	○
39	Setsu Ito & Aki Aneha	1995	Current Situation and Improvement of Gender Specific Family Budget Statistics	<i>Journal of Home Economics, Japan</i> 46(8)	○
40	Yoichi Ito	1995	Gender Statistics in Japan	<i>Bulletin of ISI</i>	○
41	Yoichi Ito	1995	Gender Statistics in Japan	ISI で配布・北京女性会議 NGO フォーラムで発表	○
42	田中尚美訳	1995	翻訳・国連(1984)『女性の状況に関する統計と指標のための概念と方法の改善』	『統計研究参考資料』(日本統計研究所) No.45	
43	鎌田とし子	1995	『男女共生社会のワークシェアリングー労働と生活の社会学ー』	サイエンス社	
44	杉橋やよい	1996	翻訳・国連『世界規模のジェンダー統計に関するワークショップー現在行われている作業と次のステップ』	『統計研究参考資料』(日本統計研究所) No.49	
45	杉橋やよい	1996	ジェンダー統計の国際的展開と日本の課題	『女性労働研究』No.30	○

46	田中尚美	1996	ジェンダー統計 (サーベイ)	『統計学』No.69・70	○
47	田中尚美	1996	女性統計の国際的展開	『統計』(日本統計協会) 4月号	◎
48	伊藤陽一	1996	日本におけるジェンダー統計	『統計』(日本統計協会) 4月号	◎
49	中野英子	1996	日本女性の社会的地位と統計-出産と就業に関するマイクロ・データの視点から	『統計』(日本統計協会) 4月号	
50	杉橋やよい	1996	第4回世界女性会議NGOフォーラム・ジェンダー統計ワークショップに参加して	『統計学』No.71	○
51	伊藤セツ・森ます美	1996	北京女性NGOフォーラム'95と第4回世界女性会議に参加して	『昭和女子大学女性文化研究所紀要』第17号	◎
52	桜井絹江・伊藤セツ・木下武男	1996	『現代の労働者階級』データのジェンダー分析-階級分析への補足-	労働総研・女性労働研究部会	◎
53	Yayoi Sugihashi	1997	Gendering Labor Statistics and Indicators: Focusing on the developed countries case	Bulletin of ISI 51 session	◎
54	Yoichi Ito	1997	Gender-Disaggregated Data:Its Present Situations and Tasks - Japanese Experiences	Bulletin of ISI 51 session, Book 2, pp.489-492	◎
55	Yoichi Ito	1997	Gender-Disaggregated Data:Its Present Situations and Tasks - Japanese Experiences	ISI 報告時配布資料	◎
56	伊藤陽一	1997	日本におけるジェンダー統計-現状, 問題, 克服の方向-	『国立婦人教育会館研究紀要』創刊号	◎
57	伊藤陽一・岩崎俊夫・篠塚英子・久場嬉子・田中尚美・杉山明子・城戸喜子	1997	『女性及び家族に関する統計データベース研究開発報告書』	国立婦人教育会館	
58	佐藤美千子	1997	農家における家族経営協定などの実績	『家庭経営学研究』No.32	
59	斎藤悦子	1997	現行家計収支統計のジェンダー視点からの検討	『家庭経営学研究』第32号	◎
60	杉橋やよい	1997	労働統計・指標のジェンダーリング-日本を中心に-	『統計学』第72号	◎
61	中馬宏之・駿河輝和編	1997	『雇用慣行の変化と女性労働』	東京大学出版会	
62	広渡清吾・御船美智子・上村協子	1997	『妻と夫の財産-女性と財産に関する研究調査報告書』	東京女性財団	
63	広渡清吾・御船美智子・上村協子	1998	『財産・共同性・ジェンダー-女性と財産に関する研究』	東京女性財団	
64	東京都生活文化局女性青少年部女性計画課	1998	『「女性に対する暴力」調査報告書』		
65	B.ハットマン他著・伊藤陽一・中野恭子・杉橋やよい・水野谷武志・芳賀寛訳	1998	『女性と男性の統計論-変革の道具としてのジェンダー統計-』	梓出版社	
66	杉橋やよい	1998	ジェンダー問題	木下他編『統計ガイドブック-社会・経済』第2版, 大月書店 所収	
67	伊藤セツ	1998	アウグスト・ベーベル『女性と社会主義』にみるジェンダー統計表	『昭和女子大学女性文化研究所紀要』第21号	
68	伊藤セツ	1998	社会政策とジェンダー統計	『学術の動向』1998.4	◎
69	伊藤陽一・久場嬉子・篠塚英子	1998	シンポジウム「ジェンダーの視点から統計を見る」	『国立婦人教育会館研究紀要』第2号	◎
70	斎藤悦子	1998	家計消費統計におけるジェンダー分析-家計消費統計ユーザーとしてのジェンダー統計の必要性-	『岐阜経済大学論集』第32巻第3号	◎
71	杉橋やよい	1998	性別賃金格差・差別の数理・計量分析の検討-「労働者構成の同一化手法」と Blinder - Oaxaca 分解手法-	『法政大学 大学院紀要』第41号	◎
72	粕谷美砂子	1999	「『1995年農業センサス』のジェンダー視点からの検討-『第2巻農家調査報告書総括編』を用いて-」	『生活経営学研究』No.34	◎
73	伊藤陽一訳と解説	1999	合衆国センサス局「所得と政策参加調査」1993年パネル調査票	『統計研究参考資料』(日本統計研究所) No.60	

74	伊藤陽一	1999	アメリカ合衆国におけるジェンダー統計とマイクロデータ分析	『研究所報』(法政大学日本統計研究所) No.25 所収	◎
75	伊藤セツ	1999	統計とジェンダー	月刊『女性教養』10月号 (No.564)	◎
76	伊藤セツ・伊藤純	1999	福祉ジェンダー統計の可能性(上)	『学苑・環境文化紀要』711号	◎
77	伊藤純・伊藤セツ	1999	福祉ジェンダー統計の可能性(中)	『学苑・環境文化特集』715号	◎
78	伊藤純・伊藤セツ	2000	福祉ジェンダー統計の可能性(下)	『学苑・環境文化特集』722号	◎
79	総理府男女共同参画室	2000	『男女間における暴力に関する調査』		
80	Yayoi Sugihashi and Yoichi Ito	2000	The Current Position of Gender Statistics in Japan and Measures for Further Development: focusing on the period in the latter half of 1990s	Report on Panel discussion Beijing + 5: Progress in gender statistics	
81	Yayoi Sugihashi & Yoichi Ito	2000	The Current Gender Statistics Situation in Japan and Measures for Further Development:focusing on the period in the latter half of 1990s	『統計学』第79号	●
82	伊藤セツ編著	2000	『ジェンダーの生活経済論ー持続可能な消費のためにー』	ミネルヴァ書房	
83	室住眞麻子	2000	『世代・ジェンダー関係からみた家計』	法律文化社	
84	財団法人 21世紀職業財団	2001	『女性の就業行動に係る調査研究会報告』		
85	伊東瑞恵・粕谷美砂子・伊藤セツ	2001	繭・米の「生産費」調査統計への女性労働の反映	『日本家政学会誌』Vol.52 No.9	●
86	伊藤セツ	2001	マイノリティ・ジェンダー統計は可能か	『部落解放研究』第141号	
87	伊藤衆子	2001	日本のマイノリティ女性の現状を理解するー人権分野での統計の必要性	反差別国際運動日本委員会編『マイノリティ女性が世界を変える!』解放出版社	
88	伊藤セツ	2001	世界のジェンダー統計動向『世界の女性2000』とIAOSのジェンダー統計セッション	『統計』2001年5月号	
89	伊藤セツ	2001	国連発行の3冊のジェンダー統計集にみる家族・世帯の扱いの変遷	『昭和女子大学女性文化研究所紀要』第27号	●
90	伊藤純・伊藤セツ	2001	高齢者保健福祉ジェンダー統計の有効性(上)	『学苑・環境文化紀要』733号	●
91	伊藤純・伊藤セツ	2001	介護保険制度下における「介護家事労働」の社会化と生活福祉経営	『日本家政学会誌』Vol.52 No.11	
92	伊藤セツ他	2001	社会政策とジェンダー統計	日本学術協力財団・吉川弘之他著『男女共同参画社会』	
93	杉橋やよい	2001	ジェンダーと統計分析	笹谷春美他編著『階級・ジェンダー・エスニシティーー21世紀の社会学の視角ー』	
94	大竹美登利	2001	ジェンダー統計システムの構築とその課題ーインドネシア女性エンパワーメント省での援助活動の事例からー	『生活経営学研究』No.36	●
95	中野純子・伊藤純・伊藤セツ	2001	日本の障害者雇用における男女差の検討	『学苑・環境文化特集』No.737	●
96	粕谷美砂子	2001	日本の現行政府家計統計における農家家計統計の位置ージェンダー視点からの検討ー	『昭和女子大学女性文化研究所紀要』第27号	●
97	粕谷美砂子	2001	ジェンダー視点からみた主要農業統計の問題点と改善方向	経済統計学会第45回全国総会報告要旨集録	
98	伊藤純	2001	ジェンダー視点からみた福祉保健統計の問題点	経済統計学会第45回全国総会報告要旨集録	●
99	天野晴子	2001	ジェンダー視点からみた家計関連統計の問題点と改善方向	経済統計学会第45回全国総会報告要旨集録	●
100	伊藤陽一	2001	地方自治体のジェンダー統計書・ウェブサイト作成の方向	経済統計学会第45回全国総会報告時配布論文	●
101	伊藤陽一	2001	ジェンダー統計をめぐってージェンダー統計の理論・運動と課題ー	『教育学研究室紀要』(女子栄養大学)第4号	●

102	伊藤陽一	2001	『ECE 地域でのジェンダー統計活動と論議の紹介と論評－特にジェンダー統計ウェブサイト構築に向けての論議を中心に－』	『統計研究参考資料』(日本統計研究所) No.75	▲
103	東京都福祉局子ども家庭部	2001	『児童虐待の実態－東京の児童相談所の事例にみる』	東京都生活文化局広報広聴部情報公開課	
104	内閣府男女共同参画局	2002	『配偶者からの暴力に関する事例調査』	財務省印刷局	
105	日本橋学館大学池木研究室	2002	公立学校女性管理職進出度の都道府県ランキング－21世紀最初の教員人事の結果は？－	『男女共同参画研究』第2号	
106	国立女性教育会館	2002	『性別データの収集・整備に関する調査研究報告書』	内閣府男女共同参画局委託研究	
107	日本女性学習財団	2002	『図説 女性と高齢社会』	日本女性学習財団	
108	芳賀寛	2002	国立女性教育会館(NWEC)でのジェンダー統計に関する研究活動	経済統計学会第46回全国総会報告要旨集録	●
109	斉藤悦子	2002	労働条件に関わるジェンダー問題へのアプローチ	経済統計学会第46回全国総会報告要旨集録	●
110	福島利夫	2002	福祉統計のジェンダー問題	経済統計学会第46回全国総会報告要旨集録	●
111	天野晴子	2002	途上国政府職員(に対するジェンダー問題)訓練プログラムでのジェンダー講師活動－経験と課題－	経済統計学会第46回全国総会報告要旨集録	●
112	大竹美登里	2002	インドネシアにおけるジェンダー統計技術援助－経験と課題－	経済統計学会第46回全国総会報告要旨集録	
113	杉橋やよい	2002	イギリスのジェンダー統計－労働統計を中心に－	経済統計学会第46回全国総会報告要旨集録	●
114	粕谷美砂子・伊藤セツ	2002	ジェンダー視点からみた農業統計再考(その1)	『昭和女子大学女性文化研究所紀要』No.29	
115	粕谷美砂子	2002	農業統計におけるジェンダー視角の拡大に向けて－紹介と検討－	経済統計学会第46回全国総会配布論文	●
116	藤井史朗	2002	ジェンダー統計の社会的機能と男女関係の変容	経済統計学会第46回全国総会報告要旨集録	
117	Iwai, H., Fujioka, M., Yoshinaga, K. and Sugihashi, Y.	2002	A Comparative Study of the Gender Factor in Employment Structure by Industry and Occupation in Great Britain and Japan using Micro-data and the SPA Method.	<i>Kansai University Review of Economics</i> , No.4	
118	Sugihashi, Y. and Dale, A.	2002	Gender Wage Differentials in Britain and Japan	E. Ruspini and A. Dale eds., <i>The Gender Dimension of Social Change: The contribution of dynamic research to the study of women's life courses</i> , Bristol: The Policy Press	
119	Sugihashi, Y. and Dale, A.	2002	Gender Statistics in Japan and Britain Focusing on labour statistics	2002 IAOS Conference, London, UK statistics accessible at http://www.statistics.gov.uk/iaoslondon2002/contributed_papers/downloads/CP_Sugihashi.doc	
120	Yuka Saito, Jun Ito, Misako Kasuya, Setsu Ito	2002	Gender Statistics on Social Welfare Volunteers in Japan – Toward Citizens'Participation-Style Welfare –	<i>Journal of Asian Regional Association for Home Economics</i> , Vol.9	●
121	伊藤セツ・川島美保共編著	2002	『新版 消費生活経済学』	光生館	
122	伊藤純・伊藤セツ	2002	ジェンダーに区分した高齢者の経済状況の把握	『学苑』740号	●
123	伊藤純・伊藤セツ	2002	高齢者保健福祉ジェンダー統計の有効性(下)	『学苑・環境文化紀要』744号	●
124	天野晴子	2002	ジェンダー視点からみた収入主体の変化と家計関連統計	長田真澄編『現代の生活経済』朝倉書店	
125	内閣府男女共同参画局	2002	配偶者等からの暴力に関する有識者からのアンケート調査	『月刊 世論調査』9月号	
126	国立大学協会第3常置委員会 男女共同参画に関するワーキング・グループ	2002	国立大学における男女共同参画推進の実施に関する第1回追跡調査報告		

127	水崎富美・橋本紀子	2002	教育におけるジェンダー統計の現状と課題	GSG12 月研究会発表⇒本科学研究費プロジェクト最終報告書所収	
-----	-----------	------	---------------------	----------------------------------	--

I-B ジェンダー統計指標・指数・統計分析

B-1 隔離指数

	著者・編者	年代	論文・記事・著書	所収誌・出版社	
1	岩崎俊夫	1994	職業別性別隔離指数	伊藤陽一編著『女性と統計—ジェンダー統計序論』梓出版社, 第5章	
2	小川雅弘	1995	性別隔離指数の問題点	『大阪経大論集』第45巻6号 大阪経大学会	
3	深川通寛	2000	ローレンツ曲線と性別隔離指数	『石巻専修大学経営学研究』第11巻1.2号 石巻専修大学経営学会	
4	小野寺剛	2002	賃金統計からみたジェンダー問題—性別分離指数と性別賃金格差の検討を中心に—	『経済統計学会』第46回全国総会報告要旨集録	●

B-2 UNDP 指数

	著者・編者	年代	論文・記事・著書	所収誌・出版社	
1	Jacob RYTEN	2001	人間開発指数は存在すべきか?	『研究所報』(法政大学日本統計研究所) No.27	
2	伊藤陽一訳・著	2001	「UNDPの統計指標」をめぐって(再掲)	同上	
3	伊藤陽一	2001	補論:UNDPのHDIおよびジェンダー関連指標も問題点。「世界の貧困に関する統計・統計指標」から	近昭夫・藤江昌嗣編著『日本経済の分析と統計』北海道大学図書刊行会, 第9章	▲
4	内閣府男女共同参画局	2002	GEMを用いたジェンダーの国際比較とその問題点	『男女共同参画諸外国制度等調査研究報告書』第6章	
5	伊藤陽一	2002	専門的技術的職業における性別職務分離と無業女性の就業意識—就業構造基本調査リサンプリング集計表による分析—	第3回ミクロ統計データ活用研究会配布論文⇒本科学研究費プロジェクト最終報告書所収	

I-C 生活時間統計(ジェンダー統計視角関連)と無償労働評価

	著者・編者	年代	論文・記事・著書	所収誌・出版社	
1	Zsuzsa Ferge	1977	『ハンガリーを中心にみた女性の有償労働と無償労働—不平等の源泉』	『ILO時報』29巻	
2	桑田百代・伊藤セツ・大竹美登利他	1977	共働き家庭と非共働き家庭の夫妻の生活時間構造の推移第1・2報	『家政学雑誌』Vol.28,No.6	
3	大竹美登利・天野寛子・伊藤セツ	1980	夫妻の生活時間構造の質的検討	『家政学雑誌』Vol.31,No.3	
4	伊藤セツ・森ます美・大竹美登利共著	1984	『生活時間—男女平等の家庭生活への家政学的アプローチ』	光生館	
5	森ます美	1984	生活時間研究と家事労働の金銭的評価	伊藤・天野・森・大竹著『生活時間』光生館, 第7章	
6	伊藤セツ・天野寛子編	1989	『生活時間と生活様式』	光生館	
7	伊藤セツ	1990	『家庭経済学』	有斐閣	
8	内野澄子	1991	趣味・娯楽活動の人口学的特徴—レジャー活動の人口学—	『統計』(日本統計協会)7月号	
9	天野晴子	1991	主婦の生活行動の分析—生活時間を中心に—	同上	
10	桜井絹江・伊藤セツ・岸本直美・木下武男・中嶋晴代	1992	男女平等社会を目指す賃金・生活費・生活時間調査	労働総研・女性労働研究部会	◎
11	大竹美登利	1992	1980年代後半の生活時間の国際比較	立川短大紀要第25号	○
12	日本労働組合総連合	1993	『女性の労働・生活時間実態調査報告書』		
13	中野恭子著訳・伊藤陽一協力	1993	翻訳・インストローと女性に関する統計	『統計研究参考資料』(日本統計研究所) No.40	
14	天野寛子他著	1994	『生活時間と生活文化』	光生館	
15	天野晴子	1994	生涯モデル別にみた男女の生活時間—社会生活基本調査を用いて—	『生活経済学研究』第10巻	●

16	篠塚英子	1994	『新フェミニスト経済学』(M.Waring, <i>If Women Counted</i> の翻訳)	東洋経済新報社	
17	伊藤陽一・杉橋やよい 訳	1994	ジェンダー統計の現状	『統計研究参考資料』(日本統計研究所) No.42	
18	久場嬉子	1994	新しい主婦論争をおこすためにー『アンペイドワークの測定と評価』のカナダの会議から	女性と労働 21ー働く女性のトータル情報, 第7号	
19	女性のアンペイド・ワーク研究会	1995	翻訳『女性のアンペイド・ワークー国際的調査研究と資料』(東京女性財団 1994 年度研究助成報告書)	尚学社	
20	天野晴子	1995	生涯モデル別家族の余暇時間と家計	『生活経済学研究』第 11 巻	●
21	大竹美登利	1995	各国の生活時間構造にみるジェンダー・エクイティ	『家庭経営学研究』No.30	◎
22	久場嬉子	1995	無報酬労働(アンペイドワーク)の測定と評価	婦人教育情報 No.31	○
23	水野谷武志	1996	年間実労働時間とその内的構成及び生活時間の国際比較ージェンダー視点を加えた推計方法の提起ー	『経済学年誌』(法政大学大学院経済学会) No.31	◎
24	天野晴子	1996	生活時間からみた家庭生活の変化	『現代の家族と生活の変容』(生協総研レポート第 12 号)	
25	久場嬉子	1996	無償労働の測定と評価	『わたしの 21 世紀』アジア女性資料センター	
26	久場嬉子訳・解説 Susan Himmelweit	1996	“無償労働”の発見: “労働”概念の拡張の社会的諸結果	『日米女性ジャーナル』Number 20	
27	国際女性の地位協会	1996	国際女性の地位協会合宿セミ(1996年9月)のシンポジウム「アンペイド・ワーク個人通報制度を考える」が収録(久場嬉子, 中島通子, 竹信三恵子の報告が掲載されている)	『国際女性』No.10	
28	久場嬉子	1996	アンペイドワークをめぐる今日の課題	同上	
29	中島通子	1996	日本の法制度とアンペイドワーク	同上	
30	本多秀司	1996	アンペイド・ワーク測定の試みードイツでの試案ー	『女性労働研究』(女性労働問題研究会) No.30	●
31	古田睦美	1996	アンペイド・ワーク概念とその評価に関するフェミニズム視点からの検討	同上	
32	世田谷ライフデザイン研究会	1996	『世田谷区民の生活時間のジェンダー分析ー生活時間配分からみた男女共生とコミュニティ』	せたがや女性センター: らぷらす	
33	Horiuchi K., Amano H., and Ito J	1997	The Actual Situation of the Division of Housework between Husbands and Wives: From the Viewpoint of Time Use	<i>Journal of Home Economics, Japan, Vol.48</i>	
34	社) 日本家政学会家庭経営学部	1997	「”Unpaid Work”への家庭経営学的アプローチ」の特集号。アンペイド・ワークについての多面的検討した 7 報告	『家庭経営学研究』No.32 夏期セミナー(1996年8月)	
35	伊藤セツ	1997	無報酬労働の概念ー家庭経営学からの発信ー	同上	
36	居城舜子	1997	コンパラブル・ワース/ペイ・エクイティの視点からー過小評価される女性職のペイド・ワークとアンペイド・ワークー	同上	
37	丸山桂	1997	税制・年金制度におけるアンペイド・ワークの取扱いー女性の就労支援と経済的自立ー	同上	
38	堀越栄子	1997	市民参加型生活支援サービス活動から無報酬労働を考えるー「見えない労働」と2つの「見える労働」ー	同上	
39	加藤登紀子	1997	無報酬労働とは	『あごら』231号, 「女性とアンペイド・ワーク」特集	
40	経済企画庁経済研究所国民経済計算部	1997a	無償労働の貨幣評価について	http://www5.cao.go.jp/j-j/doc/unpaid-j-j.html に掲載	

41	経済企画庁経済研究所国民経済計算部	1997b	『あなたの家事のお値段はいくらですか？－無償労働の貨幣評価についての報告』		
42	藤原千沙	1997	経済企画庁発表「無償労働の貨幣評価」について	同上	
43	久場嬉子	1997	経済企画庁の「無償労働の貨幣評価」の問題点	『女性教養』7月号	
44	佐藤勢津子	1997	家計における無償労働の貨幣評価と家計生産についての一考察	『季刊 国民経済計算』No.113	●
45	作間逸雄	1997	無償労働の推計について－その意義と課題－	同上	●
46	佐藤勢津子	1997	アンペイド・ワーカー－無償労働やボランティア活動は貨幣評価できるか－	ESP Economy, Society, Policy No.300	
47	佐藤勢津子	1997	無償労働の貨幣評価－定義・範囲・評価方法などの研究	『財政経済研究月報』44巻第6号	
48	佐藤勢津子	1997	無償労働の貨幣評価について－女性の視点を当てた一考察－	ESP: Economy, Society, Policy No.303	
49	高橋桂子	1997	無償労働の貨幣評価について	『女性労働』No.22	
50	大竹美登利	1997	『大都市雇用労働者夫妻の生活時間に見る男女平等』	近代文芸社	
51	堀内かおる, 天野寛子, 伊藤純	1997	家事労働観と生活時間から見る夫妻のジェンダー関係-1995年世田谷区在住雇用労働者夫妻の調査から－	『日本家政学会誌』Vol.48, 851-864	
52	伊藤陽一・水野谷武志訳	1997	インストローとジェンダー統計	『統計研究参考資料』(日本統計研究所)No.51	
53	小川雅弘	1997	家事労働の経済的価値評価について	『大阪経大論集』第47巻6号	●
54	熊谷苑子	1998	現代日本農村家族の生活時間－経済成長と家族農業経営の危機』	学文社	
55	初岡直子	1998	無償労働の貨幣評価と保育サテライト勘定への一考察	ESP: Economy, Society, Policy 8月号	
56	経済企画庁経済研究所	1998a	1996年の無償労働の貨幣評価	『季刊 国民経済計算』No.116	
57	作間逸雄	1998	「無償労働の推計について－その意義と課題－」の訂正と代替推計	同上	●
58	無報酬労働の数値化を考える会	1998	『「無報酬労働を考える」報告書』(1997年東京女性財団研究助成報告書)	BOC 出版部	
59	駒野陽子	1998	均等法改正とアンペイドワークの数値化	『日本婦人問題懇話会報』No.57	
60	天野晴子	1998	生活時間調査にみられる家事時間と家事主体の変化	『生活協同組合研究』273号	
61	経済企画庁経済研究所	1998b	『1996年の無償労働の貨幣評価』の一部改訂について	『季刊 国民経済計算』No.117	
62	天野晴子	1999	家事時間の変容と夫の家事	『生活協同組合研究』283号	
63	久場嬉子・竹信三恵子	1999	『「家事の値段」とは何か』	岩波書店	
64	初岡直子	1999	無償労働の測定と貨幣評価－背景・測定・評価法を中心に	『エコノミック・リサーチ』No.5	
65	斎藤悦子・李基榮	1999	Unpaid Work in Korea and Japan-A Comparison in Term of Time and Money Through in Time Use Study of Seoul and Tokyo	The Journal of Gifu Keizai University Vol.33 (3)	●
66	住沢博紀	1999	アンペイド・ワークと時間のジェンダー化	宮崎礼子編『現代の家庭と生活経営』朝倉書店	
67	日本NGOレポートをつくる会	1999	『日本NGOレポート－女性2000年会議に向けて』	(8月) 37,44,46頁	
68	天野寛子	1999	『日本の女性農業者の生産・再生産領域における無報酬労働の評価に関する研究』	平成9年度～平成10年度科学研究費補助金研究報告書	
69	堀越栄子	1999	介護労働はいかにあるべきか－ペイドワークとアンペイドワークの狭間で	女性労働問題研究会編『女性労働研究』No.36	
70	経済企画庁経済研究所国民経済計算室	2000a	介護と保育に関する生活時間の分析結果	『季刊 国民経済計算』No.121	
71	日本統計協会編	2000	『生活時間とライフスタイル』	総務庁統計局監修	
72	新村友季子	2000	アンペイドワークの社会的評価に関する	『生活経済学研究』第15	

			研究－ホームヘルプ労働調査から	巻	
73	伊藤セツ	2000	生活経済とアンペイドワーク	『ジェンダーの生活経済論』ミネルヴァ書房	
74	大竹美登利	2000	生活時間とアンペイドワークの評価	『ジェンダーの生活経済論』ミネルヴァ書房	
75	経済企画庁経済研究所国民経済計算室	2000b	介護・保育サテライト勘定の研究結果	『季刊 国民経済計算』No.124	
76	川崎賢子・中村陽一編	2000	『アンペイド・ワークとは何か』	藤原書店	
77	古田睦美	2000	アンペイド・ワーク論の課題と可能性	同上所収	
78	又木京子	2000	生活時間調査報告と新しいワークシステムへの提言	同上所収	
79	矢澤澄子	2000	アンペイド・ワークをめぐる国内の研究と議論の現在	同上所収	
80	水野谷武志	2000	労働時間，生活時間の国際比較	岩井浩『現代の労働・生活と統計』北海道大学図書館刊行会	
81	青野守億	2000	アンペイドワーク統計研究の中間報告について	『統計局研究彙報』第58号	
82	安川悦子	2000	調査論文 働く母親の生活時間（Time Budget）の研究－ペイドワークとアンペイドワークのジェンダー・ギャップ－	『ジェンダー研究』No.3	
83	加藤登紀子	2000	寄稿：アンペイドワークをめぐる国際的NGO活動と国連	『国際女性』No.16	
84	天野寛子	2001	『戦後日本の女性農業者の地位：男女平等の生活文化の創造へ』	ドメス出版社	
85	伊藤セツ・天野寛子・李基栄共編著	2001	『生活時間と生活意識』	光生館	
86	中馬祥子	2001	無償労働を評価するのは誰か？－世界システム論に基づく無償労働論の批判的検討	『アソシエ』第5号	
87	斎藤悦子	2001	世帯内生活時間ジェンダー格差の動向とアンペイド・ワーク評価問題	社会政策学会100回大会配布論文	●
88	古田睦美・諸藤享子	2001	塩田地区農家女性のアンペイド・ワーク－JA 信州うえだ女性部塩田支会時間利用調査 年間平均活動時間単純集計結果から	『長野大学紀要』第22巻	
89	伊藤陽一・橋本美由紀訳	2001	無償労働と有償労働のつながり	『統計研究参考資料』（日本統計研究所）No.71	
90	橋本美由紀	2001	訳者解説	同上	●
91	黒田慶子	2001	地域通貨が結ぶ新しいコミュニティの性格について－多摩ニュータウン・COMO倶楽部の人々－	『社会文化研究』No.4	
92	本多秀司	2001	有償労働時間 VS 無償労働時間	『統計』No.52	
93	水野谷武志	2001	生活時間調査による収入労働時間および不払い労働時間の実態へのアプローチ	『社会政策学会』第100回大会要旨集	
94	大竹美登利	2001	1990年代の社会変動が大都市労働者夫妻の生活時間構造に与える影響	『社会政策学会』第100回大会要旨集	
95	加藤登紀子	2001	アンペイド・ワークの測定・評価・政策化に関する世界の動き	『わたちの21世紀』27号	
96	天野晴子	2001	生活時間からみた子どもの生活	『生活協同組合研究』2001年9月	
97	水野谷武志	2001	小規模世田谷生活時間調査結果の一般化の検討と収入労働時間分析	『経済統計学会』第45回全国総会報告要旨集録	●
98	大竹美登利	2001	多摩ニュータウンの生活時間調査にみるジェンダー差	経済統計学会第45回全国総会報告要旨集録	●
99	橋本美由紀	2001	無償労働評価とジェンダー平等政策	経済統計学会第45回全国総会報告要旨集録	●

100	斎藤悦子	2001	無償労働評価の試みとしての地域通貨－生活時間統計の問題点－	経済統計学会第45回全国総会報告要旨集録	
101	浜田浩児	2002	無償労働と年金の応能負担	『季刊 国民経済計算』(内閣経済社会総合研究所)No.127	
102	伊藤セツ・天野寛子 李基栄・王琪延	2002	東京・ソウル・北京における雇用労働者の生活時間のジェンダー比較	『昭和女子大学女性文化研究所紀要』第28号	
103	久場嬉子・渋谷敦司	2002	対談 家事労働とジェンダー	『季刊 家計経済研究』No.56	
104	斎藤悦子	2002	家事労働評価をめぐる地域通貨の可能性	同上	●
105	古田睦美	2002	家事労働をどう捉えるか－家事労働論争からアンペイド・ワークの測定へ	同上	
106	斎藤悦子	2002	無償労働と地域通貨	伊藤セツ・川島美保共編『新版 消費生活経済学』光生館	
107	橋本美由紀	2002	ジェンダー平等政策と無償労働評価	経済統計学会第46回全国総会報告要旨集録	●
108	Misako KASUYA, Tomoko SONODA and Hiroko AMANO	2002	A 1999 Time Use Survey of Japanese Farming Couples Who Are Interested in the Family Management Agreement	<i>Journal of Home Economics, Japan, Vol. 53</i>	
109	水野谷武志・粕谷美砂子・齊藤ゆか・伊藤純天野晴子・斎藤悦子・松葉口玲子・天野寛子 伊藤セツ	2002	東京都世田谷区在住雇用労働者夫妻の生活時間－2000年調査－調査方法および主な結果の考察－	『日本家政学会誌』Vol.53, 877－885	

II ジェンダー統計書

II-A 国際機関関係

	著者・編者	年代	論文・記事・著書	所収誌・出版社
1	国際連合	1992	翻訳『世界の女性 1970-1990－その実態と統計－』	日本統計協会
2	国際連合	1995	翻訳『世界の女性 1995－その実態と統計－』	日本統計協会
3	国際協力出版会	1996	『ジェンダーと人間開発－人間開発報告』	古今書院
4	Machiko Osawa	1998	WOMEN IN JAPAN	United Nations
5	国際連合	2001	『世界の女性 2000 動向と統計』	日本統計協会

II-B 日本政府関係

	著者・編者	年代	論文・記事・著書	所収誌・出版社
1	総理府		『女性の現状と施策』	大蔵省印刷局
2	内閣府		『(1を改名) 男女共同参画白書』	財務省印刷局
3	労働省婦人局		『婦人労働の実情』	大蔵省印刷局
4	厚生労働省雇用均等・児童家庭局		『女性労働白書－働く女性の実情－』	財団法人 21世紀職業財団
5	婦人教育研究会		『統計にみる女性の現状』	垣内出版株式会社
6	労働省		『労働白書 高年齢者雇用と女子パートタイム労働の現状と課題』	日本労働協会
7	労働省		『労働白書 女子労働者、若年労働者の現状と課題』	日本労働研究機構
8	厚生省		『厚生白書 少子社会を考える－子どもを産み育てることに「夢」を持てる社会を－』	株式会社ぎょうせい
9	労働省婦人局婦人政策課	1995	『女性の地位指標 女性の地位指標に関する研究会報告』	大蔵省印刷局
10	男女共同参画会議基本問題専門調査会	2002	『女性のチャレンジ支援策について 中間まとめ』	内閣府男女共同参画局

II-C 地方自治体関係 (2001年7-8月調査による)

	地域	年	論文・記事・著書
--	----	---	----------

II-C-1 都道府県

1	青森	1999	青森県の女性のすがた
---	----	------	------------

2	秋田	1984	統計にみる婦人の姿
3	山形	1993	数字でみる山形の女性
4	栃木	1998	「数字が語るとちぎの女性－女性のすがた－」
5	群馬	2000	ぐんま女性白書 2000
6	埼玉	1998	統計にみる埼玉の女性
7	千葉	2000	ちば データでみる女（ひと）と男（ひと） 2000
8	東京	2001	東京の男女平等参画・データ 2001
9	富山	1995	数字で見る富山の女性
10	長野	2001	パートナーシップ長野 21
11	岐阜	1996	岐阜県女性白書
12	静岡	2000	静岡県 女性のデータブック 2000
13	滋賀	2000	データでみるパートナーしが 2010 プラン
14	大阪	2000	大阪の女性データブック
15	兵庫	2001	2001 ひょうご女と男のデータブック
16	奈良	1996	データにみる奈良県女性の現状－奈良県女性行動計画 10 ヶ年のまとめ－
17	和歌山	1997	わかやま 女性のデータブック 1997
18	鳥取		目でみるととりの女性
19	島根	2001	しまね女性データブック
20	岡山	2001	おかやまウィズプラン 21
21	広島	2001	広島県の男女共同参画の現状－女と男のデータブック－
22	山口	2001	データでみる やまぐちの女性
23	徳島	1998	徳島の女と男（ひととひと）データブック
24	高知	2001	データからみるこうちの女性
25	熊本	1999	グラフにみる熊本の女性
26	宮崎	1997	時代はパートナー（データ篇）
27	鹿児島	2000	平成 12 年度かごしま 男女共同参画の状況
28	沖縄	2001	男女共同参画白書

II-C-2 政令指定都市

1	仙台市	1998	数字で見る 仙台の女性
2	川崎市	2001	かわさきジェンダー指標に関する報告書（研究会報告） 2001
3	横浜市	2000	ゆめはまデータ缶～よこはまの男女共同参画の現在～
4	名古屋市	2001	第 5 回男女共同参画基礎調査報告者
5	大阪市	1998	女と男の 21 世紀へ
6	北九州市	1997	北九州の女性
7	福岡市	1998	ふくおか女性物語：現代女性図鑑 98

II-C-3 東京都下市区

1	大田区	1996	大田区白書
2	杉並区	2000	データにみる杉並区の女性

II-D 民間

	著者・編者	年代	論文・記事・著書	所収誌・出版社
1	日本婦人団体連合会	毎年	『(婦人白書 1990 を改名) 女性白書』	ほるぷ出版
2	井上輝子・江原由美子	1991,95,99	『女性のデータブック』	有斐閣
3	フォーラム女性の生活と展望	1994	『シリーズ〈女・あすに生きる〉② 図表でみる女の現在－男女共生への指標－』	ミネルヴァ書房
4	国際女性の地位協会	1998	『女性関連法データブック』	有斐閣
5	橋本紀子・池田靖子・ 広田健・水崎富美・森 口藤子・和田章子	2001	Women and Men in Japan －日本のジェンダー統計（日本語版・英語版）	民主教育研究所
6	坂東眞理子	1992,95, 98,2001	『図でみる日本の女性データバンク』初版～4 訂版	財務省印刷局